PRESS RELEASE
展覧会開催のお知らせ

芸大コレクション展「斎藤佳三の軌跡－大正・昭和の総合芸術の試み－」

会　　場:　東京藝術大学大学美術館(東京都台東区上野公園12-8)　展示室1
会　　期:　2006年11月4日(土)～12月17日(日)　38日間
開館時間:　10:00～17:00(入館は16:30まで)
休 館 日:　月曜日
料　　金:　一般 300 (250)円　大学・高校生 100 (50)円 (中学生以下は無料)

＊( )内は20名以上の団体料金(団体観覧者20名につき1名の引率者は無料)

＊障害手帳をお持ちの方とその介護者各1名は無料

＊「The Wonder Box展」(11月4日～12月17日)をご覧のお客様は無料でご覧頂けます。

主　　催:　東京藝術大学
助　　成:　財団法人 花王 芸術・科学財団
問い合わせ:　03-5777-8600(ハローダイヤル)
ホームページ:　http://www.geidai.ac.jp/museum/
交通案内:　JR上野駅公園口、東京メトロ千代田線根津駅より徒歩10分
京成上野駅、東京メトロ銀座線・日比谷線上野駅より徒歩15分

【展覧会概要】

斎藤佳三(1887-1955)は、図案家、作曲家、舞台美術家、演出家あるいはドイツ表現主義の紹介者として知られます。2度の渡航によりドイツを主とする20世紀初頭の西欧芸術を直接受容し、近代日本において稀な多ジャンルにわたる芸術活動を行いました。西欧の表現主義と、ジャンルを超えた総合的な芸術表現への関心の高まりという2つの重要な動向を吸収した斎藤佳三は、多面的な活動によって「総合芸術」を自覚的に目指したのです。斎藤の多様な業績は、美術の分野のみならず、近代日本文化を研究する上で今なお新鮮な切り口を提供するものです。
本展覧会では、斎藤佳三の残した様々な資料の中から約300点を選び、その多岐にわたる活動の軌跡を追います。

【主な出品作品】

DER STURM木版画展覧会目録(1914)
「想ひを助くる部屋」の飾り窓(1927)
表現浴衣(1930年頃)
リズム模様色糸刺繍帯(1940年頃)
舞台衣装デザイン画
直筆楽譜
装丁デザイン
ほか

【展示構成】

斎藤佳三はジャンルを問わない多彩な芸術活動を行いました。本展では、テーマごとに斎藤の仕事を紹介し、斎藤が試みた総合芸術の実践の軌跡を辿ります。

「初期の斎藤佳三」

斎藤は東京音楽学校へ入学、その後舞台芸術に触れ東京美術学校図案科に入学します。在学中には生涯の友となる山田耕筰を始め、小山内薫、岡田三郎助ら音楽と美術の境界を超えた交流を行います。大正 2 年、当時前衛芸術の先端であったベルリンへ渡航、表現主義芸術に触れ、帰国後日比谷美術館において「DER STURM 木版画展覧会」(シュトゥルム木版画展覧会)を行います。これは日本で初めての実作品による海外の表現主義の紹介となりました。本章では斎藤がベルリンより持ち帰ったカンディンスキーの木版画を始めとし、初期の活動を示す資料を紹介します。

「斎藤佳三のデザイン活動」

本章では、着物、浴衣、装丁、自ら考案した表現主義的な図案、家具や建造物(現存しない)のスケッチを中心として斎藤の様々なデザイン活動を紹介します。これらは「生活芸術」として有機的なつながりをもつものです。

・多彩なデザイン活動

「リズム模様」「表現浴衣」などに示されるように、斎藤が行ったデザイン活動は、彼自身が触発された海外の芸術動向を、いかに日本人の生活の中に取り込んでゆくかという試みの表れでありました。雑誌や楽譜の装丁や、服飾、家具、建造物に至るデザインの幅はそうした関心を物語っています。またこれらの活動は、伝統的な意匠から脱出しようとした大正期の図案家達の様々な展開の一端をなすものです。

・教育者としての斎藤佳三

斎藤は教育者としても意匠、図案に関する研究と普及を実践しました。大正 8 年から東京美術学校で意匠学、服装学を教えた他、数度に渡り、私設の研究所、学院を組織します。また中華民国国立芸術院が創立された時には図案科主任として赴任しました。

・服飾について

斎藤は、その服飾研究において、生活を改善していくための担い手として特に女性に着目し、同時代の女性にとっていかなる服装がふさわしいかを探求しました。自ら服飾デザインを実践するとともに、雑誌上や研究所にて活発に新しい服飾デザインを提案していきます。また、これらの考察は、戦時下に入り国民服への考案にも生かされました。

「日本の工芸と斎藤佳三」

1925 年にパリで装飾美術博覧会が行われました。日本の工芸は欧米にとって新鮮味を持つものとはいえなくなり、国内では先覚者達が工芸はいかにあるべきかについて議論を戦わせるきっかけともなりました。斎藤もまた、日本の工芸のあり方に問題意識を持った一人でした。1928 年、帝展において第 4 部として美術工芸部門が開設されます。斎藤は組織工芸として、家具、調度を総合的にデザインした部屋そのものを提出しますが、1 点主義の手工芸に重きを置く審査側により落選となります。これを端緒に斎藤は数年にわたり、帝展を中心として住居の空間デザインを提案します。本章では実際帝展に出品された現存する数少ない調度やデザイン画、記録写真を中心として、斎藤の工芸についての意識を概観します。

「舞台芸術と斎藤佳三」

斎藤は山田耕筰、小山内薫、石井漠など当時それぞれに新しい日本の音楽、演劇、舞踊を展開していった人物らとの交流により、多くの舞台美術、衣装を手がけています。またみずからもいくつかの戯曲を執筆、作曲し、それらは日本最初期の表現主義演劇に位置づけられます。本章では、舞台衣装デザイン画、戯曲等の手稿、残された当時の写真を中心に展示します。

「音楽と斎藤佳三」

大正から昭和にかけては、新しい大衆文化の一端として「国民歌謡」が盛んに作曲されます。斎藤も昭和期を中心に、活発な作曲活動を行います。なかでも明治期に作曲した三木露風の詞による「ふるさとの」は愛唱され、後に映画化されました。また、子供がクローズアップされた時代にふさわしく、いくつかの童謡を手がけています。本章では直筆楽譜を中心に、音楽と斎藤との関わりを紹介します。また、会場内には試聴コーナーを設置する予定です。

「色を発するピアノについて」

終戦後、晩年の斎藤は「有鍵楽器による採光装置」を考案、特許取得します。これは、音と色彩を同時に発する一種のピアノで、斎藤が初期に触れた総合芸術からいかに深い影響を受けていたかを物語るものです。本展を締めくくる最後に、斎藤が生涯追い求めた芸術総合の夢を象徴するものとして、特許庁へ提出した図面を展示します。

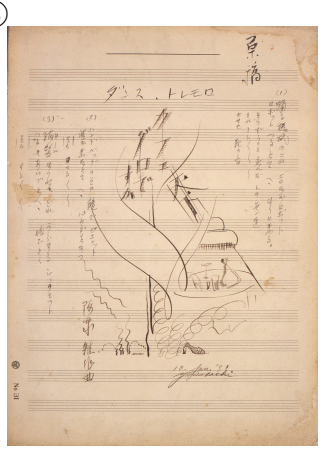
【斎藤佳三　略歴】

1887(明 20)	秋田県に生まれる
1905(明 38)	東京音楽学校師範科入学
1906(明 39)	日本初の創作オペラ「羽衣」(小松耕輔作詞・作曲)漁師伯良役で出演
1907(明 40)	東京美術学校図案科入学
1908(明 41)	「ふるさとの」(三木露風作詞)作曲
1912(大元)	ベルリンへ渡航、山田耕筰と共に生活
1914(大 4)	帰国、ドイツ・シュトゥルム分社主催「DER STURM」展を開催(会場:日比谷美術館)
1916(大 5)	帝国劇場、本郷座、ローヤル館などで舞台背景、衣装を担当
1917(大 6)	日本意匠協会設立
1919(大 8)	東京美術学校にて非常勤講師(以後 15 年間)として服装学、意匠学担当
1920(大 9)	松竹キネマ創業と同時に美術部長、この年以降生活改善同盟会服装調査委員
1923(大 12)	農商務省嘱託、東京美術学校委託により渡航。
	ワイマールにてバウハウスを訪れる
1927(昭 2)	国際工芸株式会社設立
	第 8 回帝展第 4 部に「想ひを助くる部屋」出品、落選で論争を呼ぶ
1928(昭 3)	主情派第 1 回美術展開催(会場:丸ビル(丸菱))、「なべては思い出」出品
	第 9 回帝展第 4 部に「食後のお茶の部屋」出品、入選
	(以降「寛ぎの食堂」「日本間の寝町」「ピアノを主として」3 回入選)
1930(昭 5)	1930 年代に活発な歌謡曲作曲活動、石井漠振付「生命の叫び」作曲
1931(昭 6)	新舞踊家連盟発足、石井漠、松永工と共に常務理事
1934(昭 9)	東京美術学校依頼解嘱
1937(昭 12)	「齋藤佳三氏美術音楽生活 25 年記念会」(会場:日比谷公会堂)
1939(昭 14)	商工省嘱託。輸出工芸図案展覧会審査員
	国民服のデザイン、『国民服の考案』発行
1954(昭 29)	「有鍵楽器の採光投射装置」実用新案登録
1955(昭 30)	東京都世田谷区の自宅で歿、葬儀委員長は山田耕筰

【貸し出し画像一覧・キャプション】

①

②

③


④

⑤

①「リズム模様原画」東京藝術大学大学美術館蔵
②「住居のための飾り窓」東京藝術大学大学美術館蔵
③「カフェグロですか（ダンス・トレモロ）」東京藝術大学大学美術館蔵
④「リズム模様色糸刺繍帯」東京藝術大学大学美術館蔵
⑤「舞台『ハムレット』衣装デザイン（オフィーリア）」東京藝術大学大学美術館蔵

展覧会についての問い合わせ、画像借用の申し込みは下記までお願い致します。

広報担当　竹林佐恵
Tel: 050-5525-2438　Fax: 050-5525-2532　E-mail: takebaya@off.geidai.ac.jp
展覧会担当　島津京
Tel: 050-5525-2450　Fax: 050-5525-2533